

おわりに

技術の伝承がどこの企業に置いても、難しい局面を迎えているのではないのでしょうか。私の先輩技術者の皆さんは「団塊の世代」と言われている人達でした。

その先輩技術者達が会社を離れて行っています。(退職しています。)

(定年後、5年間の嘱託社員を経過し、企業人・サラリーマンを卒業して、会社から離れています。)

そう言う私も、数年後に卒業を控え、第二の人生を迎えようとしています。

技術・技能の教育・指導する立場の仕事を受け、(2010年～)実施していくなかで、当初から常に頭の片隅に有ったのが、この「技術・技能の伝承」に関する事でした。

私自身は、先輩技術者皆様からの指導を受けることが出来ました。特に講習会などの講師としての「技術の指導方法」、「指導の教材内容」、最も大切な「ムダを無くし物を大切にす心」、「安全は自分で自分を守る事」など仕事以外でも重要な事でした。

さて私が後輩に「技術の伝承」をする立場になっていますが、なかなか後継者が現れないのが実情です。

どこの職場・企業でも、生産に直接結びつかないような業務に人員を割くことが難しくなっています。

(専門技術・技能とその資格、指導・講習するための技術、人格などを磨く必要もあり、指導者個人の努力・忍耐も必要になります。)

今になって団塊の世代の皆様のパワーを感じない日は有りません。

今回、「加工体感教育におけるテキストと手順書」をまとめ(教材文書化)しましたのは、前述したような事を踏まえ、今後、教育・指導を担当される講師の人達に利用して頂きたいと思ったからです。

新任指導者が、ゼロから始めるのでなく、「加工体感教育におけるテキストと手順書」から始めれば、さらに高度(そして広範囲)な教育指導が実践出来ると確信し、教材執筆しました。

今回、まとめた(教材文書化した)「ボール盤作業手順書」は、私が講師を担当する以前から加工体感教育ボール盤作業として講習会が実施(2009年～現在)されていました。

長い間実施され熟成された内容になりました。後継者の不足で、この「ボール盤作業」講習会が埋もれてしまうのは、自分の責任と感じ(また残念なので)まとめ報告(教材文書提出)をすることで、継承(技術の伝承)を進める事にしました。

今後も自分の担当する講習会(電気シークス制御技術指導)について、まとめ(教材文書化)を進めたいと思います。

著作権に関する事

この教材文書に関する責任は、著者（福嶋雅巳）に有ります。

文中に有る写真は著者が撮影しました。

また図は、著者が作成した物、歴代講師（指導者）が作成し伝承された物です。

（当社オリジナルと判断します。）

著作権に関しては、著者と株式会社山田製作所に有ると判断します。

感謝のことば

株式会社山田製作所高等技術訓練校指導員の皆様、生産本部・生産企画部・管理課・ヤマダテクニカルセンターの皆様には、様々な便宜をお取り頂いた事を感謝致します。

特に、生産本部長・星野光男氏、管理課長・星野和彦氏、ヤマダテクニカルセンター係長・白石立男氏、高等技術訓練校職業訓練指導員・藤田賀都彦氏には教材文書提出に関して尽力頂き感謝致します。

この「加工体感教育・ボール盤作業」の教育内容を（講師担当者として）私を指導して頂きました小熊一男氏（職業訓練指導員・2015年3月当社卒業）にこの場を借りて感謝申し上げます。

また、この教材文書を執筆するに当たり校正・書式・図化・文章などに、ご指導・ご協力頂きました福嶋久代さんに感謝致します。

皆様、ありがとうございました。

参考文献

- ①「機械加工シリーズ ボール盤作業」 著者：和田 正毅
発行所：日刊工業新聞社 業務局 映像グループ
- ② TECHNICAL DATA 「ドリル加工」 発行所：オーエスジー